

1 プログラム名 「自分を大切にする方法」

2 指導のねらい

不当な要求に対しては、自分を守ることが第一である。ここでは、不当な要求に対して、勇気を振り絞って拒否する方法を体験させ、実際の生活場面でスキルを発揮できるようにさせたい。

3 獲得目標とするスキル

- ①相手の目を見る。 ②落ち着くための自己会話ができる。
- ③勇気をためる自己会話ができる。 ④意志をはっきり口に出して言う。

4 展開

場面	教師の発問 (○)・指示 (●)	児童の反応・行動	留意点	時間
イン ス ト ラ ク シ ョ ン	●ある人から先生のところに手紙が2通届きました。このクラスではありません。仮にA君としましょう。一通目を読みます。 ●A君はB君から嫌なことを頼まれているようです。しかし、B君は、とても強引なので、断れないようです。これからA君はどうしたらよいか手紙でアドバイスしてあげてください。 ●書けましたか。もう一度書いた手紙を読み返してください。	・自分にとって嫌な頼み事もある。 ・都合の悪いときもある。 ・手紙を書く。 ・自分で書いた手紙を確認する。	・人に頼まれた時、「引き受けるか」「断るか」を自分の意志で決めなければならないことに気付かせる。 工夫のポイント どうしたら強引な相手に対して断ることができるのか、問題意識をもたせる。	10
モ デ リ ン グ	●それでは、手紙を読んでもらいます。 ●よくないことを押しつけられたときには、「そんなことはできない」と相手に伝えることが大切です。 ●それでは、実際の場面でやってみます。 ○見ていたみなさんは、どんな感想をもちましたか。 ●実際に断るというのは難しいですね。断るときには勇気がいります。その時に「落ち着いて」「リラックスしろ」と自分に言い聞かせ、落ち着くための自己会話、「大丈夫、断れる」「相手の目を見て」など勇気をためる自己会話が考えられます。自分には、どれが必要かよく考えてください。	・手紙を読む。 ・モデリングを見る。 ・断り方のポイントを確認する。 ①相手を見る ②自己会話をする 落ち着く、勇気を出す ③はっきりと断る	・何人かに手紙を読ませて要点をまとめ、板書する。 ・はっきり断れる子を指名する。 ・B君役 of 教師は拒否を受け入れる結末にする。 ・意見を3つの観点にまとめて板書し、出ない観点については、教師が提示する。 ・自分に言い聞かせる自己会話を確認させる。	15
リ ハ ー サ ル	●では、2通目を読みます。みなさんは、先ほど確認したポイントをもとに、友だちにアドバイスしてあげてください。 ●手紙を書きましょう。 ○何人かの人に発表してもらいましょう。 ●見ている人も自分で自己会話しながら、見ていてください。	・声をだして、読む。 ・手紙を書く。 ・発表する。	・相手のことも考えながら、はっきりと自分の意志を伝える大事さを確認する。 ・役割演技であることを確認して実演する。	15
フ ィ ー ド バ ッ ク	○今日の学習の感想を発表してください。 ●断るべき時には、しっかり自分の意志を伝え、自分を大切にすることが大切です。勇気を出せるように今日の学習を思い出してみてください。	・感想を発表する。 工夫のポイント 日常生活の中でも、自分を落ち着かせたり、自分に勇気をためる自己会話を繰り返し練習し、定着化を図る。	・時間があれば班全員の感想を発表できるとよいが、できない場合には代表者でもよい。	5

5 その他

自分が嫌なことはきっぱりと拒否をすることが、自己の身を守る方法にもなることを学ばせる機会としたい。

板書例

「相手を見る」「自己会話をする」「はっきりと断る」

年 組 氏名

ケース１

◆ A君からの手紙

B君は、ぼくの家ほねの近くに住んでいます。だから、学校から、よくいっしょに帰ります。半年前、B君は、足の骨ほねを折ってしまったため、松葉づえまつばを使うことになりました。

松葉づえでランドセルを背負せおうのはたいへんです。だから、ぼくはB君のランドセルをもってあげることにしました。そのときは、B君もとてもよろこんでくれました。

しかし、B君は、足がなおっても、ぼくにランドセルをもってくれといひます。ぼくがことわろうとすると、「なんで、おれのをもってくれないんだよ。」とどなってくるのです。ぼくは、こわくてしかたなくもってあげることにしました。いつも、もたされるので、一度いやな顔をすると、なぐられそうになりました。それ以来、ぼくは毎日、ランドセルいらいを持っています。ぼくは、学校に行くのがいやになっています。どうしたらいいのでしょうか。

◆ A君への手紙

ケース２

◆ C君からの手紙

D君は、クラスで一番背が高く、運動も得意とくいです。D君が、ぼくの近くにくるといつも「プロレスごっこやろう」といって、首をしめたり、腕うでをねじったりします。息ができなくなったこともありましたが、「大丈夫だいじょうふ、遊びだから」と笑わらっていってしまいました。

いつだったか、とびげりをされたこともあります。そのときには、腰に大きなあざができてしまいました。そのときも「何で、しっかりよけないんだよ。よけない方が悪い」といって、笑っていました。ぼくは、「やめてくれ」といいたいのですが、顔を見るところこゝろこわくていえません。また、もしもそんなことをいったら、もっと技わざをかけられるかもしれないし、たたかれるかもしれません。どうしたらいいでしょう。

◆ C君への手紙

年 組 氏名

場 面

1 場面

<ケース１>

A君から、B君のことでこまっているという手紙がとどく。

クラスの子どもからの手紙でアドバイス^{ゆうき}をもらい、勇気を出してことわる場面。

2 役割設定

- ・ A君：B君からランドセルをもたされつづけ、学校に行くのがいやになっているが、アドバイスをもらったことで勇気を出し、B君にことわる子ども
- ・ B君：（教師が行う）A君にランドセルをもたせ、ことわられるとどなる子ども

3 役割演技の流れ

・ A君は下のように自己会話【 】をしながら、B君にはっきりとことわる。

B君（教師）「今日も、ランドセルもってくれよな。」

A君（児童）【落ちついて、落ちついて】「ぼくは、もちたくないんだよ。」

B君（教師）「何だよ、いつももってくれるじゃないかよ。」

A君（児童）【大丈夫、大丈夫】「B君のけがはなおったんだから、自分でもちなよ。」

B君（教師）「いいだろ。もてよ！」

A君（児童）【相手の目を見て、君ならことわれるぞ】「もう、こんなことはしたくないよ。」

B君（教師）「わかったよ…」

* B君役の教師は、拒否^{きよひ}を受け入れる結末^{けつまつ}にする。



自己会話とは

心の中で自分に言い聞かせること

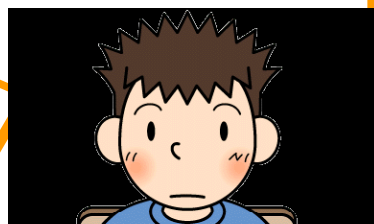
いやなことをされたり、らんぼうされそうになったりしたとき、やめてほしいというのは、とても勇気のいること。相手のことがこわいかもしれない。そういうとき、自分で自分をはげまします。

落ちつくための自己会話

「落ちついて」

「リラックスしよう」

「大丈夫だよ」



勇気をためる自己会話

「君ならしっかりことわれる」

「ゆっくり、言おう」

「相手の目を見て」

「大きな声で言おう」